



創業54年 三重県で最初の環境計量証明事業所 ～分析屋さんの日常から少し笑える環境エピソードを～

弊社は創業54年目の、三重県で最初に誕生した環境計量証明事業所、通称「分析屋さん」です。

この仕事をしていると、日々さまざまな出来事に出くわします。

今回は、読者の皆さんにリラックスしてもらいながら、思わず微笑んでいただけるようなエピソードを、オムニバスでご紹介します。

■汚染賦課金払ったがや

ある会社さんで、汚染賦課金の計算をされている場面に出くわしました。その会社さんの排ガス量は多くて4,000m³/h弱。どう考えても汚染賦課金支払い義務となる排ガス量には達していないのに、長年支払っていたとのこと。詳しく聞いてみると、小型ボイラ3台のうち1tボイラの排ガス量が「本来1,300m³/h」なのに「13,000m³/h」と届け出られていたのが原因でした。

結果、10年以上も不要な汚染賦課金を支払っていたというオチに。「メッチャ損した!」と嘆かれていましたが、環境という言葉が、まだ公害と言われていた時代のお話です。

■田んぼに油が……

あるお役所に「田んぼに油が流れた!」と通報があり、現場へ同行しました。行ってみると、水面にはタンパク質やフミン酸といった土地の栄養素が浮いているだけ。木の枝で水面をすっと切ってみせると、きれいに割れる。「油じゃないですね」と説明し、納得だけでした。

「この辺の稲が一番育つんやわ～」と田んぼの持ち主。……ほんとですかね(笑)



■なんでここに排水が流れとるん

昭和の時代、ある事業所の排水が、なぜか農業用水路につながる水路に放流されて

いました。設置当時、役場にも届出されていたそうですが、今では考えられない話です。現在その企業さんは、年1回の水路清掃や地域行事への協力などを行い、地域のヒーロー企業に。排水管理も合併浄化槽で万全。結果的に、地域と理想的な関係を築いた「怪我の功名」でした。

■それ基準値じゃないよ

「CODの基準をオーバーした!」と慌てた事業所さん。詳しく聞くと、伊勢湾総量規制の割当量を届出排水量で割って独自に基準値を設定していたとのこと。

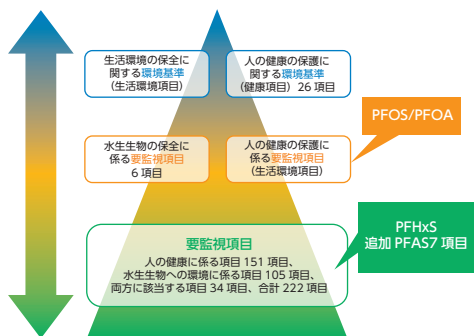
たとえば: 11.5kg/日 ÷ 800m³ × 1,000 = 約14mg/L。管理意識としては素晴らしいのですが、実際には河川放流ではCODの基準値は存在しません。そのため、お役所への報告は不要ですよとお伝えしました。

いかがでしたか? 昭和・平成・令和と時代を経るなかで、環境の現場もずいぶん様変わりしています。今回は「令和の生々しい話」は控えましたが(笑)、また折を見てご紹介できればと思います。

最近の法規制動向について

水環境に係る「要調査項目リスト」が改定されました。

水環境における要調査項目の見直しが行われ、令和7年9月29日付けでアクリロニトリル等15項目が新たに追加、222項目となりました。そもそも「要調査項目」とは、個別物質ごとの「水環境リスク」は比較的大きくない、又は不明であるが、環境中での検出状況や複合影響等の観点からみて、「水環境リスク」に関する知見の集積が必要な物質のことです。このリストは、環境大臣が定めた「要監視項目」や「水質基準項目」の候補として、平成17年度(2005年度)に初めて作成されて以来、定期的に見直しが行われています。この中には今注目のPFAS7成分(HFPO-DA、PFNA、PFBA、PFBS、PFHxA、PFHpA、PFPeA)も含まれます。要調査項目は、今後人の健康保護のため注目すべきと判断された時点で「要監視項目」に格上げされる可能性があり、国が分析法を検討し、存在状況調査が実施される流れとなります。



東海テクノからのお知らせ

工場等でお困りの環境対策、「環境部長」にお任せください!

「環境部長」とは、弊社の協力会社である(株)オオスミが提供する環境法令対策支援サービスのことで、この度、東海テクノの営業品目としてサービスを開始することになりました。このサービスの強みは52の環境法令に加え各県条例にも対応していること。遵法確認や環境関連部署の後継者不足問題など、工場が抱える様々な環境対策への悩みを解決に向けてサポートする商品となっています。弊社が従来行ってきた環境情報支援よりも、より工場内部にまで入り込んだサービスとなりますので、興味をお持ちいただけましたら、弊社営業員までお気軽にご連絡をお願い致します。

<https://www.tokai-techno.co.jp/product-service/hrd-consulting/environment-manager/>

52の
環境法令と
「条例」に
対応



社員プチコラム

坂内 あゆみ (コーポレート本部 ICTGr)

三重県に移り住んで6年が経ち、引っ越しと同時に迎えた柴犬と、1年後に迎えたジャックラッセルテリアもすっかり大きくなりました。柴犬は気分屋で、機嫌が良い時以外は名前を呼んでも耳をピクピク動かすだけで、振り返ってすらくれません(笑) この子は来年で7歳になるので、少しずつシニアの暮らしを意識するようになりました。ジャックのほうは何歳になっても元気いっぱいな典型的な陽キャで、好きな言葉は「さんぽ」と「ごはん」。その魔法の言葉を聞いて飛び跳ねながら喜び姿に、毎日癒されています。



編集後記

先日、弊社は創業54期を迎えました。この半世紀、三重県初の「分析屋さん」として、お客様の環境対策を支えてきました。PFASなど分析項目が増え、法律が複雑化する中、弊社は進化を続けています。今回ご紹介の「環境部長」サービスに加え、農業支援や循環型社会に向けた新しい分野にも積極的に挑戦中です。これからも、皆様にとって身近で頼れる「環境のパートナー」であり続けたいと思っています。(みっちー)